

第4章 心の安全について

プログラムの中では、参加者同士、参加者とスタッフとの関係で様々なことが起こります。その中で、いじめや心の痛手を受ける参加者がいることもあります。あるいは、スタッフのちょっとした言葉で精神的ダメージを与えてしまうことがあります。こうした心に関する安全は、活動の内容が深まるにつれ重要なポイントとなります。参加者の心の動きに対しても十分な配慮を心掛けて下さい。人を大切にする気持は、自然や環境を大切にする気持と同じです。重く受け止め行動して下さい。

<一人ひとりの行動にたえず気を配る>

時には会話から、時には観察や書きものから、参加者が発する「心のサイン」に気づくよう心がけます。

- 健康チェック（食欲、便通、睡眠、顔色、ケガなど）ができていますか？
- 楽しんでいるか？
- 主体的に関わっているか？
- 協力できているか？

<接し方、話し方にも気を配る>

接し方は、プログラムやディレクターによっても異なります。一般的には、参加者が楽しくくつろげるような接し方と話し方を心がけます。危険に関する話など、場面に応じた話し方も必要です。

- 言葉づかいは、適切か？
- 命令口調になっていないか？
- 指示を出しすぎではないか？
- 体の距離、心の距離は、適切か？

<よいコミュニケーションをつくる>

スタッフと参加者のコミュニケーションがとれているかどうかは、きわめて重要です。不安、疑問、提案等を気軽に交換できる関係を心してつくって下さい。

- 名前と顔は一致しているか？
- 一人ひとりと話をしているか？
- 話し掛ける努力をしているか？
- 話し掛けられやすい雰囲気にいるか？

<解決を援助する>

問題には、さまざまなレベルがあり、判断が必要です。参加者間で自ら解決できるようにスタッフが援助することも大切です。危険対応など、時には毅然とした介入もあります。

- 解決方法の判断は適切か？

- ディレクターや他のスタッフと問題を共有しているか？
- 過干渉，過保護をしていないか？
- 参加者間で問題が共有されているか